

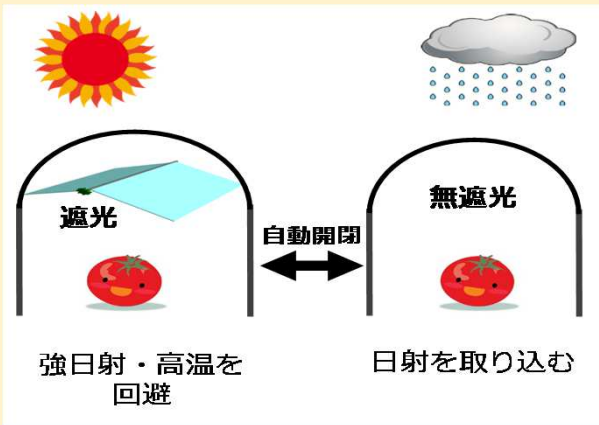
ハウス内の光環境を適正化する 自動調光システム



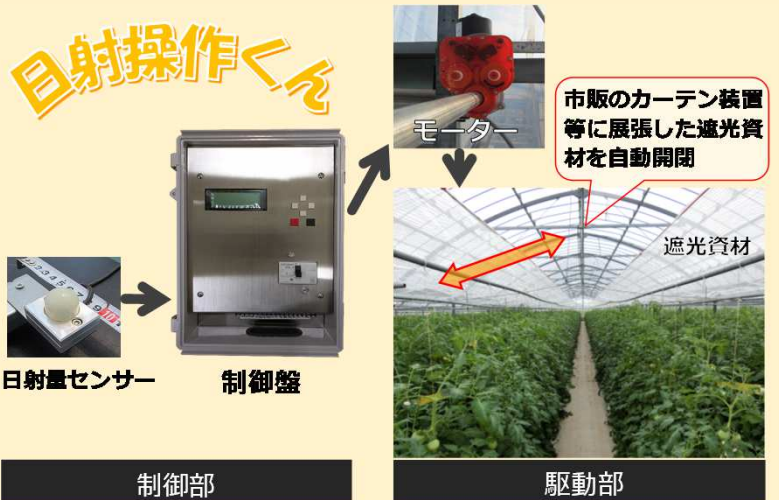
広島県立総合技術研究所 農業技術センター 栽培技術研究部

- 西日本における夏秋作の施設栽培では、夏季の高温および強日射による生育および収量・品質の低下が問題
- そこで、日射量に応じて遮光資材を自動で開閉し、植物の生育に最適な施設内光環境とする「自動調光システム」を実用化！
- DC24VおよびAC200Vのモーターに対応し、小規模のパイプハウスから大規模の連棟ハウスまで導入可能

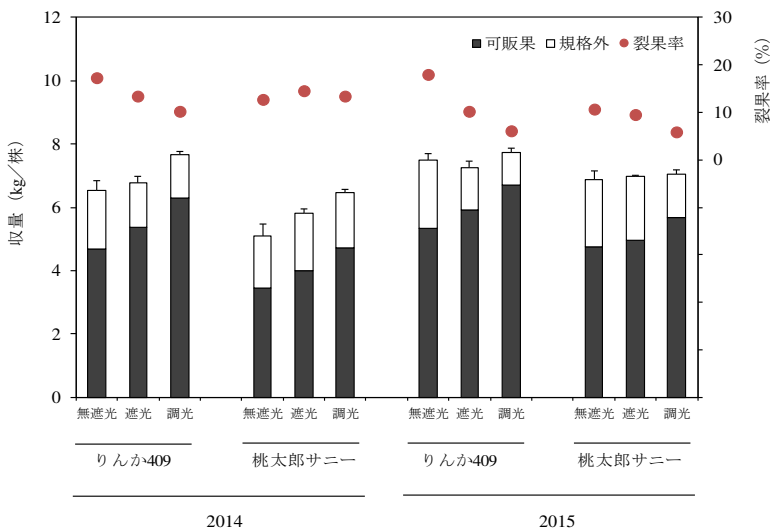
本システムの特徴



「自動調光システム」のイメージ



システムの構成（左：実用化した制御盤）



夏秋トマトにおける本システムの増収効果

【耕種概要】 2014年：播種；3/26，定植；5/14，収穫；6/27～12/15
2015年：播種；3/25，定植；5/11，収穫；6/22～11/30
【遮光資材の遮光率】35% 【調光区の使用装置】
自動調光制御盤（日射操作くん，（株）寿エンジニアリング）
【調光区の制御方法】上限値と下限値：2014年；45と65 klx，2015年；50と67.5 klx



現地への導入事例

本成果は以下の事業により開発しました

- 「革新的技術開発・緊急展開事業」（うち経営体強化プロジェクト）
- 攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業